

ふれあい懇談会会議録（原町区保育所（園・こども園）父母の会連絡協議会）

団体名 原町区保育所（園・こども園）父母の会連絡協議会

開催日 令和7年11月11日（火）

時 間 18時30分～20時

場 所 原町聖愛こども園 ホール

参加者 団体関係者15名

市長、健康福祉部長兼福祉事務所長、こども未来部長兼福祉事務所長、建設部長
(事務局)秘書課広報広聴係長、秘書課広報広聴係員

1. 開会の挨拶
2. 市長挨拶
3. 出席者紹介
4. 懇談
5. 閉会の挨拶

令和7年11月11日 開催
ふれあい懇談会発言事項一覧

団体名：原町区保育所（園・こども園）父母の会連絡協議会

No.	発言者	発言内容	回答者	回答事項
1	参加者	NIKOパークは利用者が増加してきており、混雑で利用できないこともある。また時間制限があり、ゆっくり遊ぶことができず、市内では屋内遊び場が不足している。原町区に新たな遊び場を設けてほしい。	こども未来部長	令和8年度オープンを目指し「地域子育て支援拠点施設」を整備中である。施設内には小学生低学年対象の屋内遊び場（約135平米）を設け、他の部屋も未利用時には遊び場として開放する予定である。天候を気にせず遊べる環境を提供することで、既存の遊び場から利用者の分散を図ることができると考えている。
2	参加者	地域子育て支援拠点施設の計画が進んでいることは理解しているが、原町区にNIKOパークのような施設を整備してほしいという意見である。地域子育て支援拠点施設に機能を内包するとのことだが、混雑解消につながるか疑問である。地域子育て支援拠点施設の遊び場などの程度で、どのような遊具を設置する予定か伺いたい。	こども未来部長	屋内遊び場に加えて、他部屋も開放するなど遊べるスペースを変動することができるため、スペースは広く確保できると考えている。特に需要が高い休日には、多くの部屋（コミュニティ広場159平米+健診会場229平米）を開放したい。遊具等は現在選定中であるが、おもちゃを部屋に配置する計画である。
			市長	地域子育て支援拠点施設については、国の財源を活用して建設することとしているため、何でも揃えることは難しい。また、維持管理もあるため、建物をどんどん作るとも言いづらい。まずは地域子育て支援拠点施設を利用いただき、不足する部分についてご意見をいただきたいと考えている。
3	市長	保護者の皆さんにはNIKOパークの良い点を改めて具体的に教えていただきたい。	参加者	屋内施設で天候に左右されず、遊び方に応じて遊ぶ場所を選べる点が魅力である。年の離れた兄弟がいる家庭でも一か所で楽しめる。また、スタッフが子どもと遊んでくれるサービスも他にはない良い点だと感じている。
4	市長	現在の市の財政状況では新設施設の建設は極めて難しい。NIKOパークの特徴である異年代が同時に遊べる場や、子どもと遊んでくれるスタッフが確保できるのであれば、原町区以外でも良いだろうか。また、小高区と鹿島区に閉校となった校舎があるが、ここを利活用するはどうか。	参加者	問題は、NIKOパークが定員で遊べず、遊ぶ場所がない点である。学校であれば遊ぶスペースや駐車場も十分確保できそうなので、空き校舎の活用について、ぜひ前向きに検討していただきたい。
5	参加者	北泉の臨時キャンプ場について、利用者数はどのくらいか。また料金はいくらか。	建設部長	令和6年度は約250区画が利用されている。料金は1区画で1泊1000円で提供している。 ※令和6年度の利用者数は257区画、843人。令和7年度の利用者数は287区画、872人。
6	参加者	グリーンパークの検討段階資料の中に、グラウンドゴルフ場やウッドボール場、スケートボード場を整備する予定との説明がある。これは決定なのか。また道路整備は避難路を整備するものか。	建設部長	グリーンパークについては、決定ではなく検討中である。震災後は汚染土仮置き場、震災前は芝を張ったエリアだった。現在、原状回復を進めるため環境省と協議し、予算確保を目指している。環境省は、震災前のソフトボール場やテニスコートを復旧しようとしているが、市では、芝を張ったキャンプ場など類似施設として利用できないか模索していく考えである。 道路整備については、避難路ではなく歩道の無い区間があることを踏まえ、歩道整備を進めたいというものである。

7	参加者	街中に子どもの遊び場や施設を作るのが難しいということであれば、北泉のような開けた場所にまとめて設置すると良いのではないか。 部署間の壁を越え、ぜひ素晴らしいエリアを作ってほしい。	建設部長	部署間の垣根を取り扱うことは役所内でも命題となっている。これから頑張っていきたい。
			市長	市で今後新たに建物を建設することは非常に難しい。建物を作ると維持費がかかり赤字になり、将来的に負の財産となる可能性が高い。このため、このエリアには、トイレなど必要なものを除き、建物を作らない方針である。この場所の魅力は、近くにグリーンパークや泉庵寺があり、相乗効果が期待できる点である。 負債を残さないようにする考え方であることから、ご理解いただきたい。
8	参加者	小児医療について、既存病院の診察体制や入院受入の拡大、新たなクリニックの開設など一定の充実は見られる。しかし、皮膚科や耳鼻科などの専門診療科のクリニックなどが無い、あるいは少ないという意見が多い。市民の声を理解いただき、可能な対策を講じてほしい。	健康福祉部長	昨年の回答から大きな前進はなく、また小野田病院の皮膚科がなくなったことさらに市内の診療施設が少ない状況になっている現状について、申し訳ない気持ちである。市としても地域医療提供体制を確保することは重要な課題だと考えている。専門性の高い医師確保については、引き続き県や国に要望活動しながら、充実をはかっていきたいと思っている。
			市長	保育園などと同様に、医療も一次医療は民間、二次医療は総合病院と役割分担が必要だと考えている。しかし、医師の高齢化が進んでおり、民間病院も閉院の可能性が出てきている。また、全国的な傾向として都市部への若い医師の集中や24時間対応が求められる小児科・産科の医師減少も問題と考えるが、特に田舎の医師不足が深刻化している。市では病院新設に5000万円の補助金を準備しているが、申し込みはない。本来は民間が担うべきところだが、市民生活に必要な部分として市で対応している。しかし市が行うと採算が取れず、やればやるほど赤字が膨らんでいくことはご理解いただきたい。
9	参加者	未就学児や小学校低学年の児童が自然科学に触れるイベントが増えるとうれしい。数字につまづきやすい幼・保育園から小学校への移行期に、休日に親子で参加できる学びの機会があると助かる。既存の団体がイベントを開催しやすいよう、閉校した学校の理科室や教室を活用できると良いと思う。	市長	民間やNPO法人では収支が課題となり、子どもの少ない田舎ではイベント開催が頻繁にできない傾向がある。イベント実施は行政だけでは難しいが、伝統芸能である民謡を子どもたちに教えたいたい団体に対し、文化継承の一環として三昧線購入を支援した事例がある。行政は理念だけでなく具体的な案があれば支援が速いため、そのような形で相談いただきたい。
10	参加者	震災後から毎年実施しているアンケートでは、当初は放射線対応や病院確保などの要望が多かったが、近年は遊び場の拡充や商業施設など、生活の楽しみに関する要望が増えている。アンケートを通じて、最低限の子育て環境は整っていると感じている。ただし、屋内遊び場の増加要望は気候変動の影響もあり必要性が高いと考える。子どもがのびのび過ごせる環境として今後も検討を続けてほしい。	市長	震災後の本市の取り組みは3期に分けられる。1期は津波や汚染で壊れたものの復旧、2期は仕事や病院など生活基盤の整備、そして3期は生活の維持に加え、魅力的なまちづくりを目指す段階である。この実現には行政だけでなく民間との協力が不可欠である。行政は力を入れるべき分野を選び、新たなステージを目指して努力を続けたい。

11	参加者	復興公営住宅に空き部屋が多いと聞いている。部屋数が多い物件をファミリー世帯向けに貸し出してほしい。条件緩和などがあると助かる。管轄は県だと思うので、ぜひ提案してほしい。	市長	県には相談してみたい。これまで公営住宅は低所得者向けが中心で、ファミリー向けの物件は民間が担っていたが、災害公営住宅では特例で条件が緩和されている。今後はF-REIに来る高所得者向け住宅も必要になると考えており、市としても固定資産税の減免などの優遇措置を検討していきたい。民間に働きかける方針である。市として何ができるか、民間と力を合わせて対応していきたい。
----	-----	--	----	---